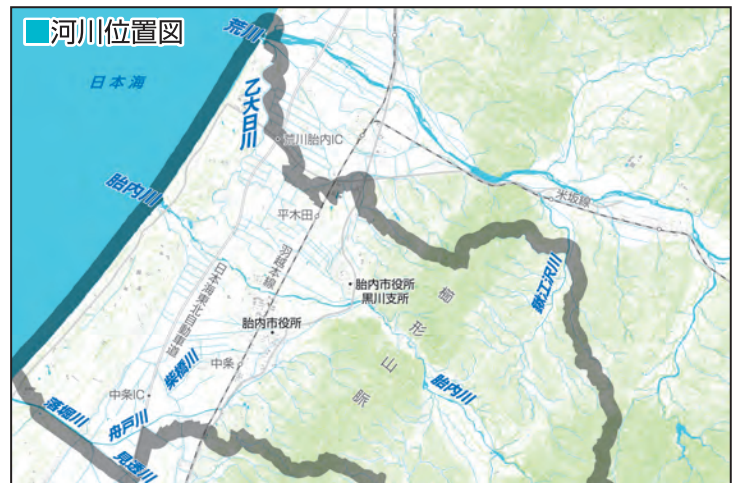


2

胎内市では、過去に「8.28 水害（羽越豪雨）」をはじめとした大水害が発生しており、特に集中豪雨が発生しやすい6月～8月は注意が必要です。また、近年は「台風の大型化」や突発的かつ局地的に豪雨となる「ゲリラ豪雨」が全国で増加傾向にあります。

胎内市の特徴

- ・平野部は市の中央部を流れる胎内川が槲形山脈や飯豊連峰などから運び込んだ土砂が堆積してできた扇状地です。
- ・胎内川を中心に、北は荒川、南は落堀川水系舟戸川が流れ、河川に囲まれた地形です。
- ・中条地区南部は、かつて大きな水面があった干拓地のため、標高5 m以内で洪水時に冠水する恐れがあります。



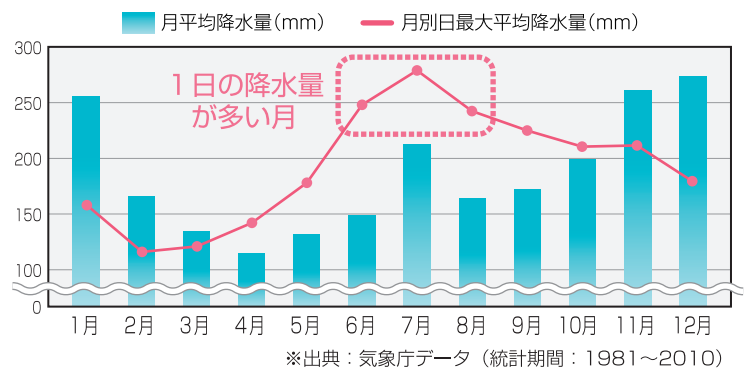
降水量

- 本市は年間降水量は約2,200mm。
(全国的に見るとやや多い地域)
- 降水量は7月及び11月～1月にかけて多い。
- 過去の1日あたりの降水量上位3位はすべて6月。
- 1時間あたりの最大降水量は7月と8月が占めている。

風速・風向

- 1981（昭和56）年8月に台風が原因と思われる北北西19m/sの風を記録していますが、瞬間的な記録を見ると冬や春の南南西の風が多い。
- 2010（平成22）年10月には竜巻による被害も発生しているため、台風以外の季節も気をつける必要がある。

胎内市(中条)の月別平均降水量と月別平均日最大降水量のグラフ



中条観測所の主な観測記録（上位3位）

日降水量(mm)		観測日
1位	176	1981(昭和56)/6/22
2位	171	2011(平成23)/6/23
3位	157	1997(平成 9)/6/28
日最大1時間降水量(mm)		観測日
1位	65	1995(平成 7)/8/11
2位	53	2004(平成16)/7/10
3位	46	2002(平成14)/8/12
日最大風速・風向(m/s)		観測日
1位	北北西 19.0	1981(昭和56)/8/23
2位	北西 17.0	1980(昭和55)/2/5
3位	西 16.0	1979(昭和54)/3/31
日最大瞬間風速・風向(m/s)		観測日
1位	南南西 26.0	2012(平成24)/4/3
2位	南南西 24.9	2012(平成24)/4/4
3位	南南西 24.8	2010(平成22)/1/13

※出典：気象庁データ（統計期間：1981～2010）

風雨の強さと想定される被害

「風水害」は地震災害に比べ毎年発生する危険性があるものの、台風の経路や雨量規模を天気予報等から予測できるため、避難しやすい災害の1つと言えます。天気予報を良く確認しましょう。

雨の強さと想定される被害

1時間の雨量 (mm)	予報用語	想定される状況・被害
大雨注意報 (20mm以上)	20mm以上～30mm未満	強い雨
	30mm以上～50mm未満	激しい雨
大雨警報 (40mm以上)	50mm以上～80mm未満	非常に激しい雨
	80mm以上～	猛烈な雨

大雨特別警報

警報の発表基準をはるかに超えるこれまでに経験したことがないような異常な現象が起きそうな状況です。ただちに命を守る行動をとってください。

※大雪の場合も同様です。

風の強さと想定される被害

平均風速 (毎秒)	予報用語	想定される状況・被害
強風注意報 (4月～9月：12m以上) (10月～3月：15m以上)	10m以上～15m未満	やや強い風
	15m以上～20m未満	強い風
	20m以上～25m未満	非常に強い風
暴風警報 (25m以上)	25m以上～30m未満	(暴風)
	30m以上～	猛烈な風

暴風特別警報

警報の発表基準をはるかに超えるこれまでに経験したことがないような異常な現象が起きそうな状況です。ただちに命を守る行動をとってください。

※高潮、波浪、暴風雪の場合も同様です。

台風の経路と胎内市への影響

経路	雨及び風の分布状況
① 日本海北部	●前線が新潟県付近にある場合を除き、大雨はほとんどない。 ●南西～西の強風がふきやすい。 ●フェーン現象により気温が高く乾燥する。
② 新潟県のすぐ西側	●暴風が最もふきやすい。 ●台風が中心が過ぎたところ、南西～西の強風に注意。 ●山沿いで50～100mmの大雨が降りやすい。
③ 新潟県を縦断	●雨、風ともに強い。 ●台風通過前に北よりの強風、通過後は西～北西の強風。 ●上・中越地方で降水量が多い（1日に100～200mmの大雨）。
④ 新潟県の東側	●雨が中心だが、強い台風の場合、風も強い。 ●冬の季節風と似ており、海岸部では北西～北の強風。 ●台風が通過する直前に北～北東の風、その後北西～北の強風。 ●上・中越地方で降水量が多い（1日に100～200mmの大雨）。



参考：新潟地方気象台ホームページ

避難のポイント

避難開始の目安は避難勧告・避難指示になりますが、天気予報等の情報を入手し、早めの自主避難を心がけましょう。

①大雨・洪水 注意報 が出た場合

祖父母を含め、家族は同じ家屋に集まり
買い物等の外出は控えましょう。避難道具
の準備をしましょう。

②大雨・洪水警報が出た場合

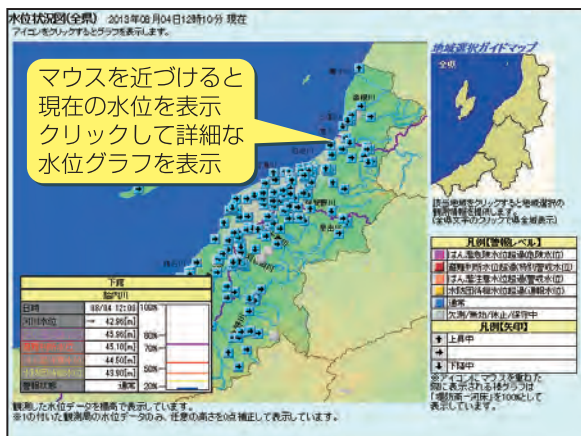
天気予報や避難指示に関する情報に注意し、いつでも避難できるようにしましょう。

③避難準備情報が出た場合 ※決して川の状況を見に現地へ行かないでください！

川の水位が避難判断水位(特別警戒水位)を越えていることが想定されます。雨が止んでも、河川の上流部で大雨が降っている場合、避難が必要になることがあるため、ホームページで川の水位を確認しましょう。

■河川防災情報システム

<http://doboku-bousai.pref.niigata.jp/kasen/>



■荒川のリアルタイム情報

<http://www.hrr.mlit.go.jp/uetsu/>



国土交通省羽越河川国道事務所のホームページで、荒川の各観地点の水位やライブカメラによる映像を確認できます。

リアルタイム情報



ライブカメラ



④避難勧告・避難指示・特別警報が出た場合

かなり危険な状態です。すみやかに避難所へ避難しましょう。

やむなく浸水の中を避難する場合

運動靴をはく



長靴や裸足は危険です。

長い棒を杖代わりに



水の中の障害物を長い棒で確認しましょう。

マンホールをよける



深い浸水の場合、マンホールがはずれ、吸い込まれてしまう場合があります。

浸水が深い場合は救助を待つ



歩ける深さの目安は腰の高さまでです。それ以上の場合は高台で救助を待ちましょう。

水害ハザードマップの見かた

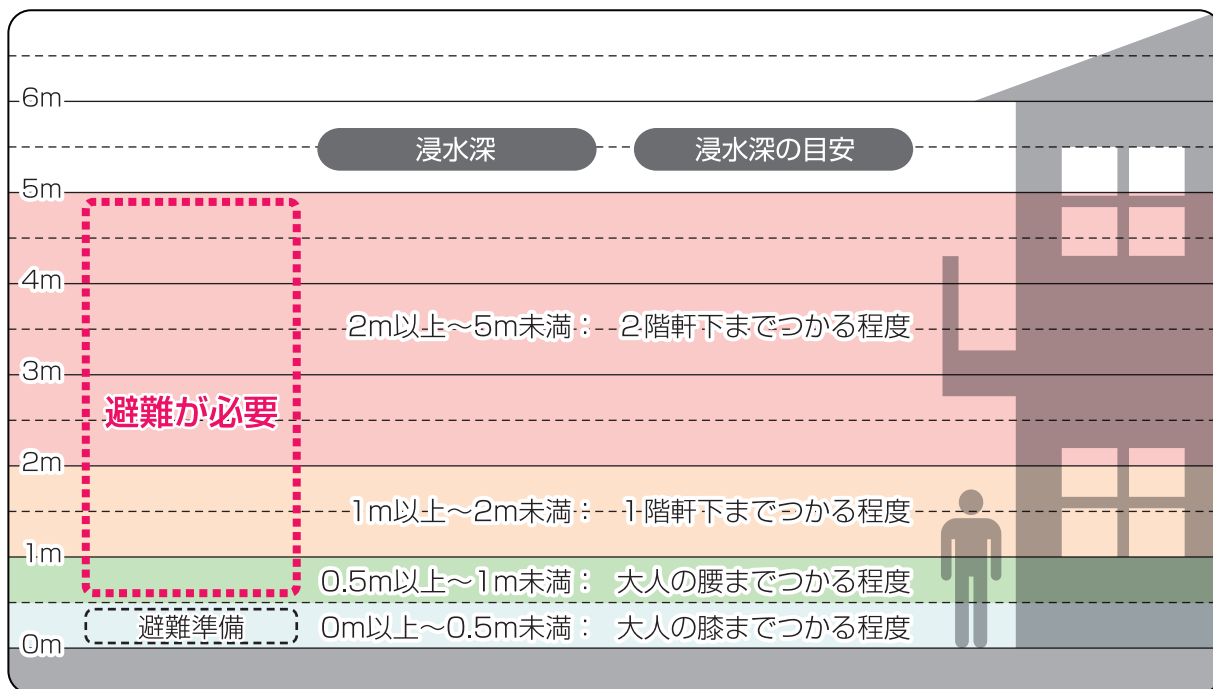
この浸水想定区域図は大雨による河川のはん濫により浸水が想定される範囲とその程度、並びに避難所等を示しています。対象としている河川及び想定条件は右のとおりです。

対象河川	想定条件
胎内川	100年に1回起こる大雨を想定 (胎内川平均雨量607mm/1日)
落堀川水系 落堀川 見透川 舟戸川 柴橋川	100年に1回起こる大雨を想定 (250mm/1日)
荒 川	既往最大水害の羽越水害と同様の大雨を想定 (荒川流域の平均雨量431mm/1日)

■マップの見かた

1

自宅の位置と浸水深の色を確認。



2

避難所へのルートと色を確認。

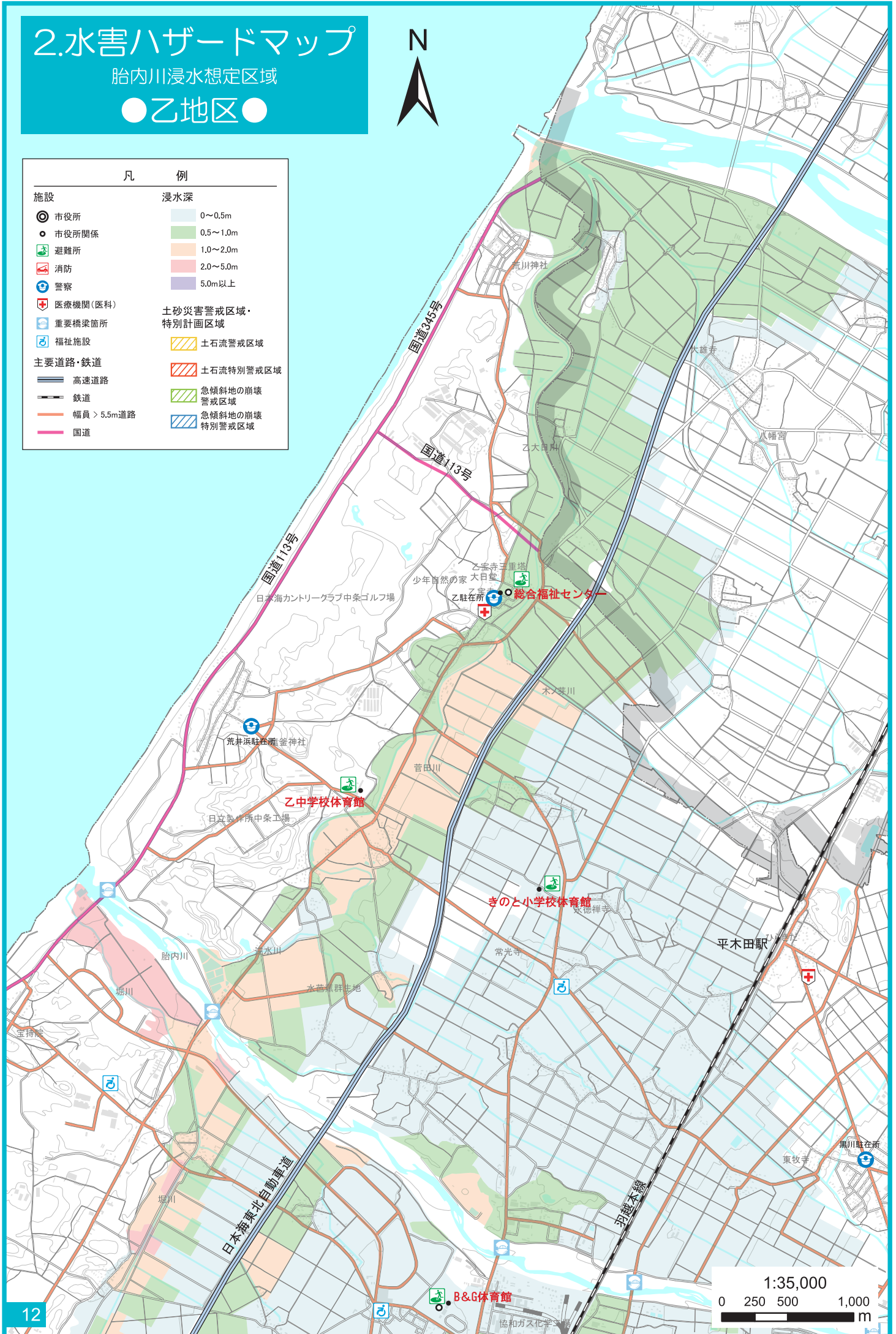
色がついている場合 	浸水深が0.5mを越えると避難が非常に困難になります。 避難ルートが自宅より浸水深が深くなる場合は、別の避難所や避難ルートを選択するか、特に早めの避難をお願いします。
色がついていない場合	慌てずに避難所へ避難してください。

3

外出先として、「よく行く買い物先」や「職場」、「親戚・要援護者宅」についても同様に①と②を確認しましょう。

※要援護者となる方は、支援者と一緒に確認しましょう

●乙地区●



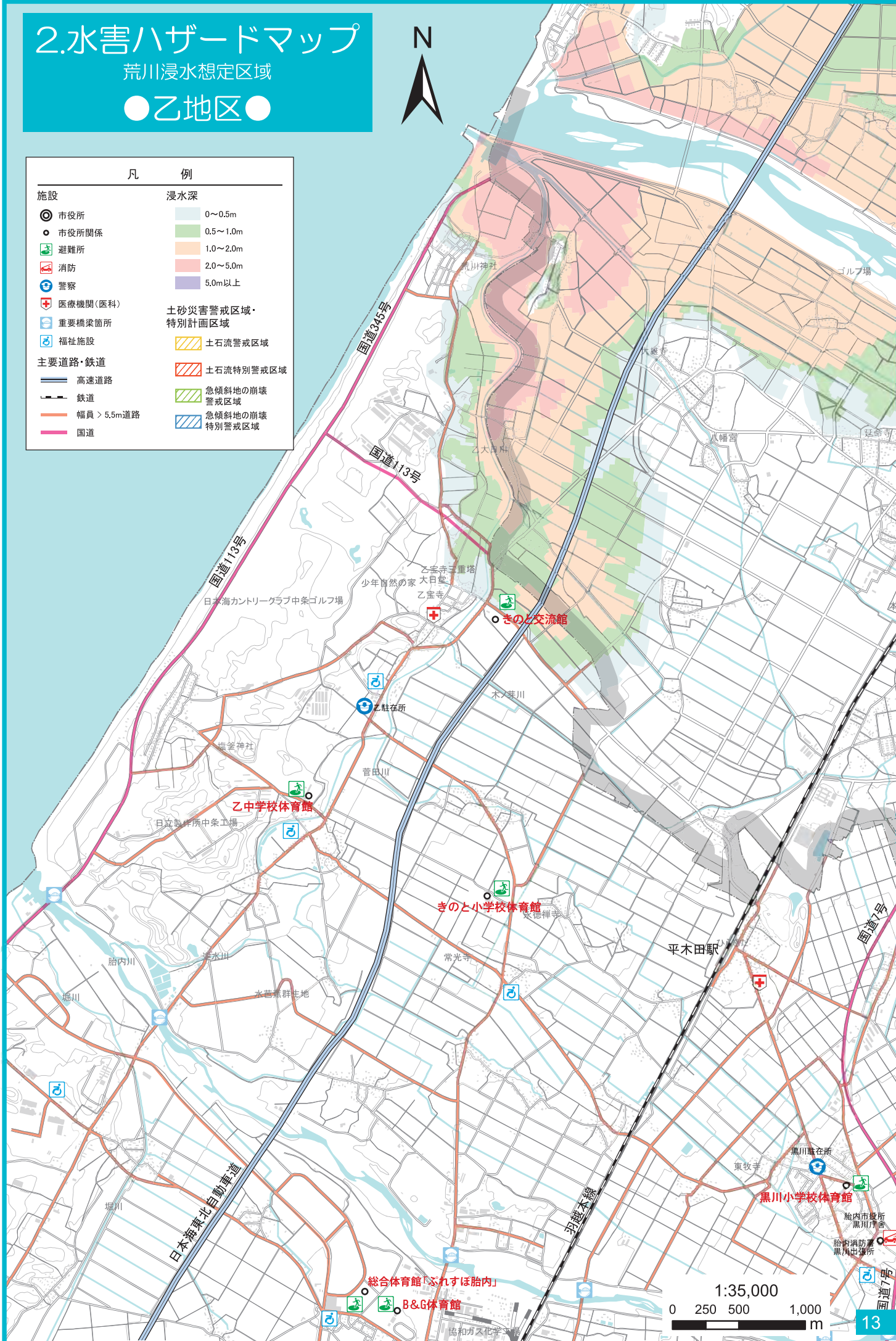
2.水害ハザードマップ

荒川浸水想定区域

●乙地区●



凡	例
施設	浸水深
● 市役所	0～0.5m
● 市役所関係	0.5～1.0m
避難所	1.0～2.0m
消防	2.0～5.0m
警察	5.0m以上
医療機関(医科)	土砂災害警戒区域・特別計画区域
重要橋梁箇所	土石流警戒区域
福祉施設	土石流特別警戒区域
主要道路・鉄道	急傾斜地の崩壊警戒区域
高速道路	急傾斜地の崩壊特別警戒区域
鉄道	
幅員 > 5.5m道路	
国道	



1:35,000

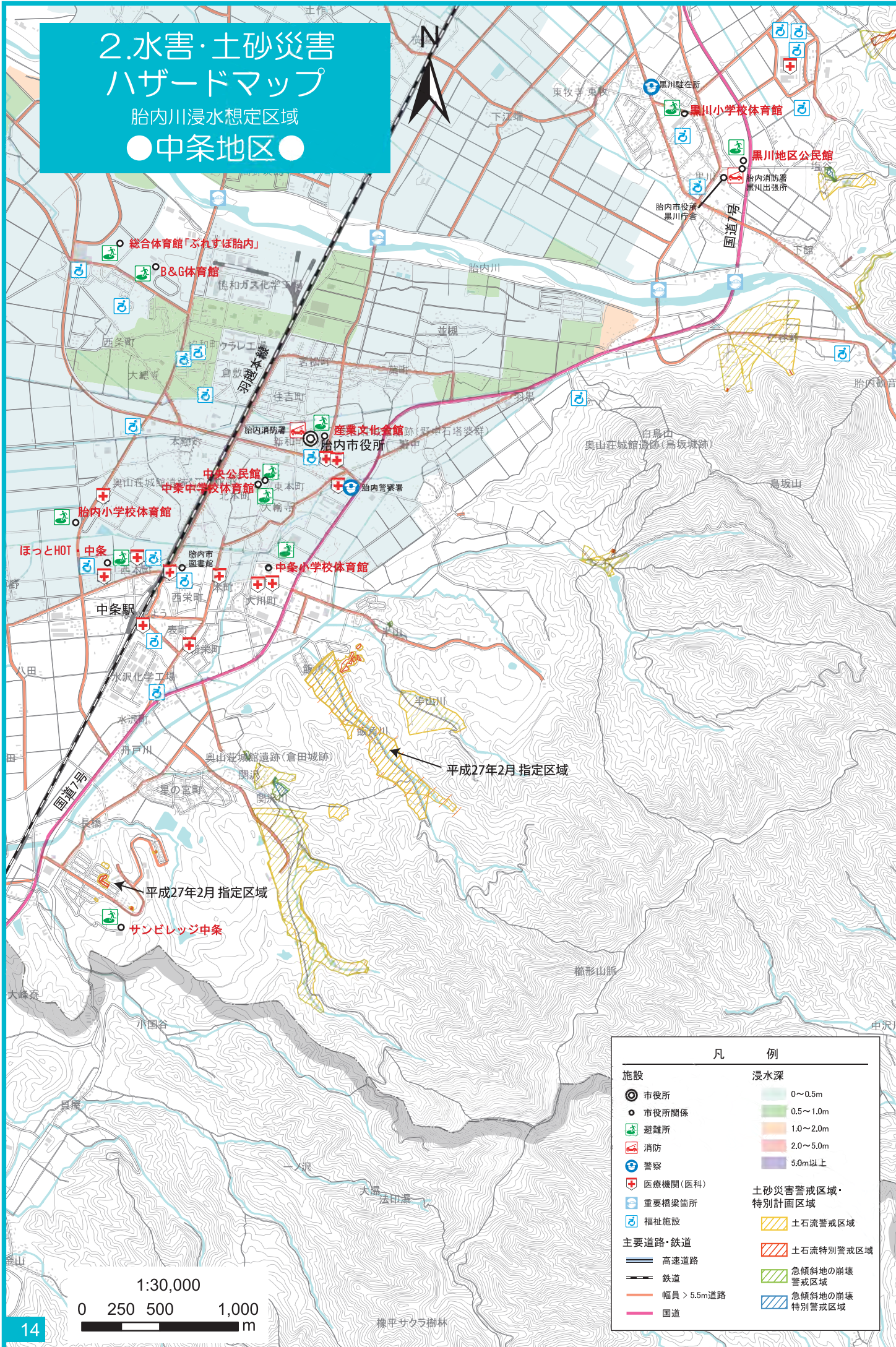
0 250 500 1,000 m

13

2.水害・土砂災害 ハザードマップ

胎内川浸水想定区域

●中条地区●



凡 例	
施設	浸水深
● 市役所	0～0.5m
● 市役所関係	0.5～1.0m
● 避難所	1.0～2.0m
● 消防	2.0～5.0m
● 警察	5.0m以上
● 医療機関(医科)	
● 重要橋梁箇所	土砂災害警戒区域・特別計画区域
● 福祉施設	土砂災害警戒区域
主要道路・鉄道	土砂災害特別警戒区域
— 高速道路	急傾斜地の崩壊警戒区域
— 鉄道	急傾斜地の崩壊特別警戒区域
— 幅員 > 5.5m道路	
— 国道	

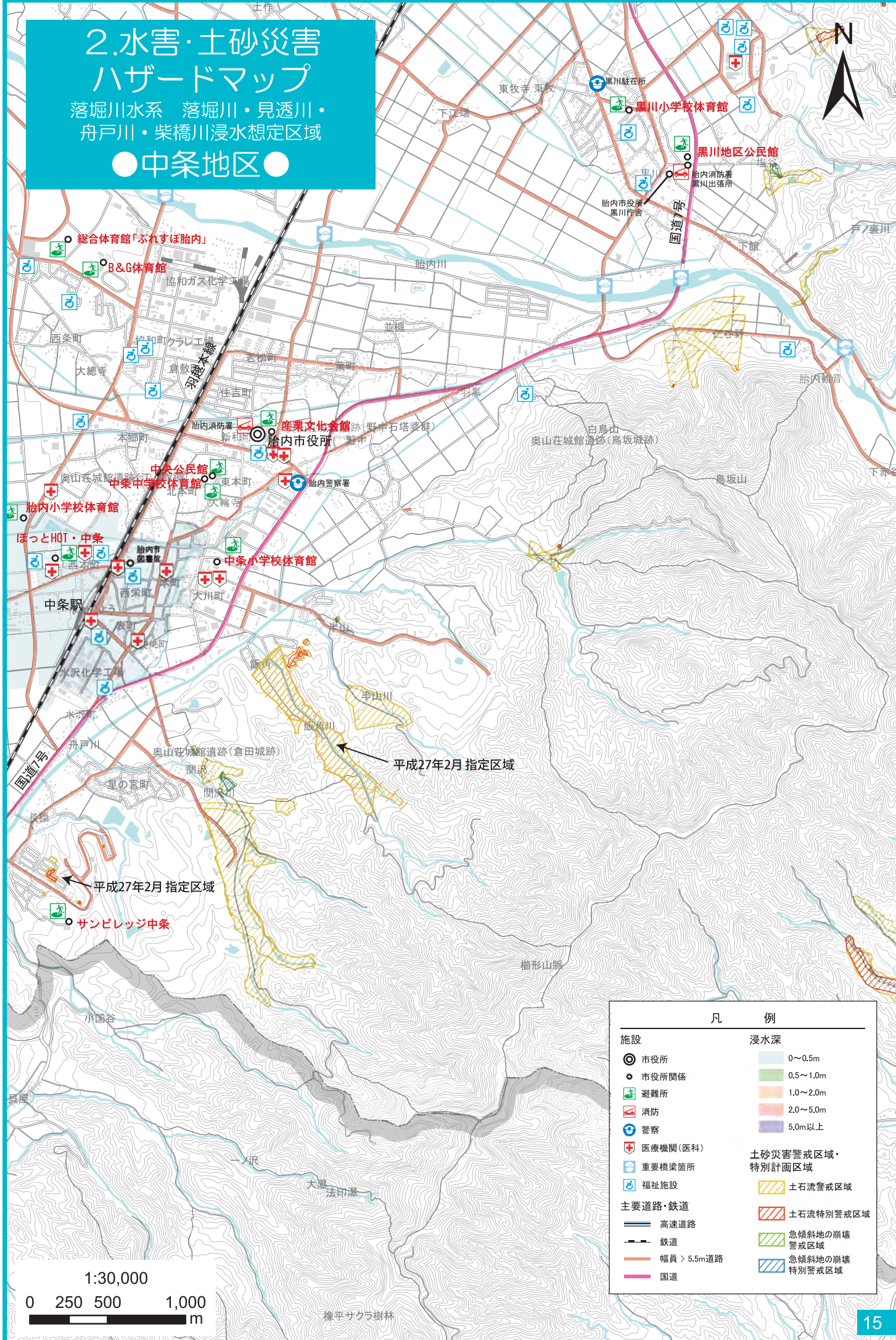
1:30,000

0 250 500 1,000 m

2.水害・土砂災害 ハザードマップ

落堀川水系 落堀川・見透川・
舟戸川・柴橋川浸水想定区域

●中条地区●



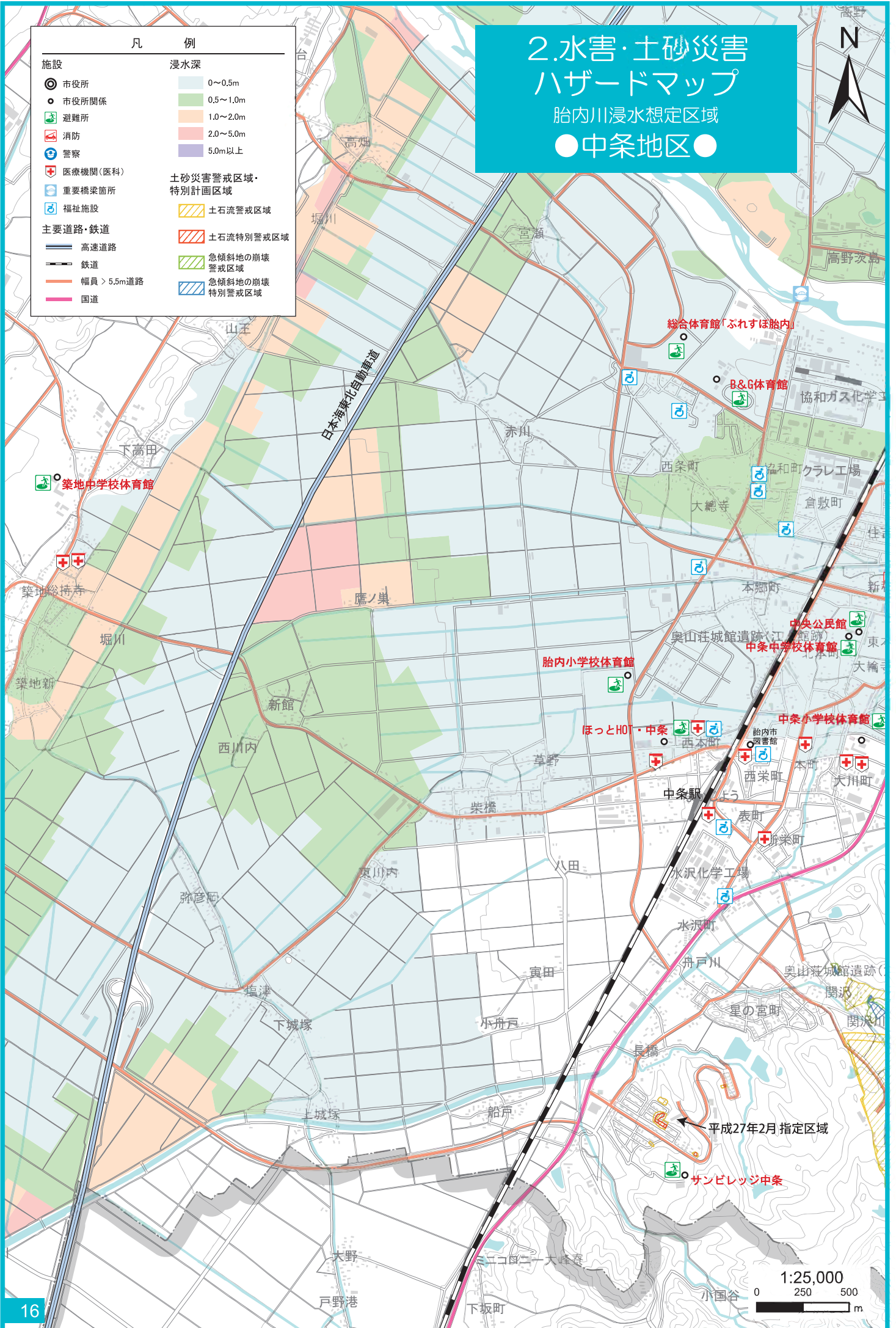
2.水害・土砂災害 ハザードマップ

胎内川浸水想定区域

●中条地区●



凡 例	
施設	浸水深
● 市役所	0～0.5m
○ 市役所関係	0.5～1.0m
● 避難所	1.0～2.0m
● 消防	2.0～5.0m
● 警察	5.0m以上
● 医療機関(医科)	
● 重要橋梁箇所	
● 福祉施設	
主要道路・鉄道	土砂災害警戒区域・ 特別計画区域
— 高速道路	土石流警戒区域
— 鉄道	土石流特別警戒区域
— 幅員 > 5.5m道路	急傾斜地の崩壊 警戒区域
— 国道	急傾斜地の崩壊 特別警戒区域



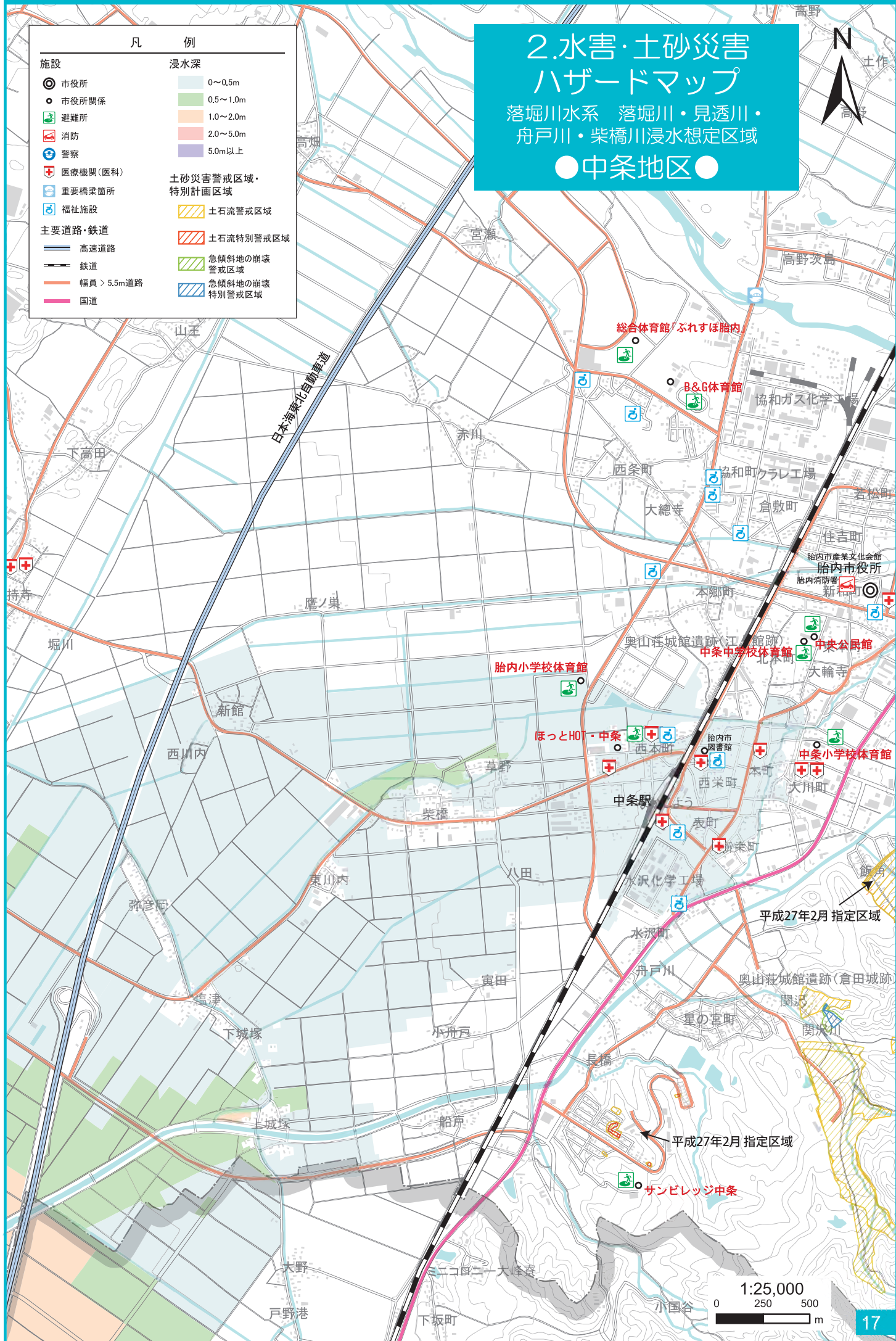
2.水害・土砂災害 ハザードマップ

落堀川水系 落堀川・見透川・
舟戸川・柴橋川浸水想定区域

●中条地区●



凡	例
施設	浸水深
● 市役所	0～0.5m
○ 市役所関係	0.5～1.0m
● 避難所	1.0～2.0m
● 消防	2.0～5.0m
● 警察	5.0m以上
● 医療機関(医科)	土砂災害警戒区域・ 特別計画区域
● 重要橋梁箇所	土石流警戒区域
● 福祉施設	土石流特別警戒区域
主要道路・鉄道	急傾斜地の崩壊 警戒区域
— 高速道路	急傾斜地の崩壊 特別警戒区域
— 鉄道	
— 幅員 > 5.5m道路	
— 国道	



平成27年2月 指定区域

平成27年2月 指定区域

1:25,000

0 250 500 m

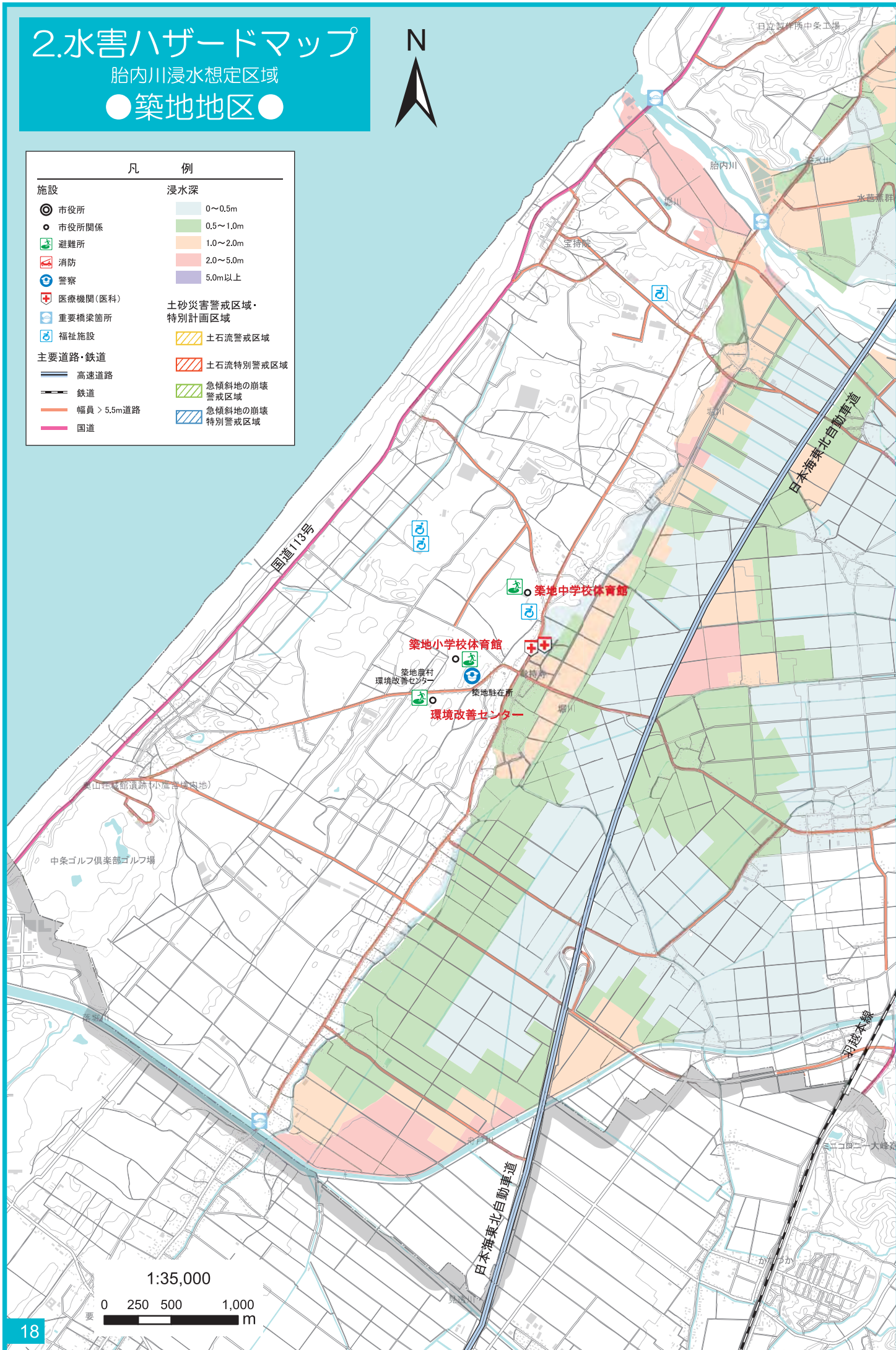
2.水害ハザードマップ

胎内川浸水想定区域

●築地地区●



凡 例	
施設	浸水深
● 市役所	0～0.5m
● 市役所関係	0.5～1.0m
● 避難所	1.0～2.0m
● 消防	2.0～5.0m
● 警察	5.0m以上
● 医療機関(医科)	土砂災害警戒区域・特別計画区域
● 重要橋梁箇所	土石流警戒区域
● 福祉施設	土石流特別警戒区域
主要道路・鉄道	急傾斜地の崩壊警戒区域
— 高速道路	急傾斜地の崩壊特別警戒区域
— 鉄道	
— 幅員 > 5.5m道路	
— 国道	



●築地地区●



2.水害ハザードマップ

落堀川水系 落堀川・見透川・
舟戸川・柴橋川浸水想定区域
●築地地区●

凡 例

施設	浸水深
市役所	0～0.5m
市役所関係	0.5～1.0m
避難所	1.0～2.0m
消防	2.0～5.0m
警察	5.0m以上
医療機関(医科)	
重要橋梁箇所	土砂災害警戒区域・特別計画区域
福祉施設	土石流警戒区域
主要道路・鉄道	土石流特別警戒区域
高速道路	急傾斜地の崩壊警戒区域
鉄道	急傾斜地の崩壊特別警戒区域
幅員 > 5.5m道路	
国道	

日立製作所中条工場

胎内川

清水川

水芭蕉群生地

堀川

宝持池

日本海東北自動車道

国道113号

築地中学校体育館

築地小学校体育館

築地農村環境改善センター

築地駐在所

松持寺

堀川

奥山荘城跡遺跡(小區古墳内)

栄ゴルフ倶楽部ゴルフ場

落堀川

舟戸川

羽越本線

国道7号

みさごーろ大緑菜

かづの

興透川

1:35,000

0 250 500 1,000 m

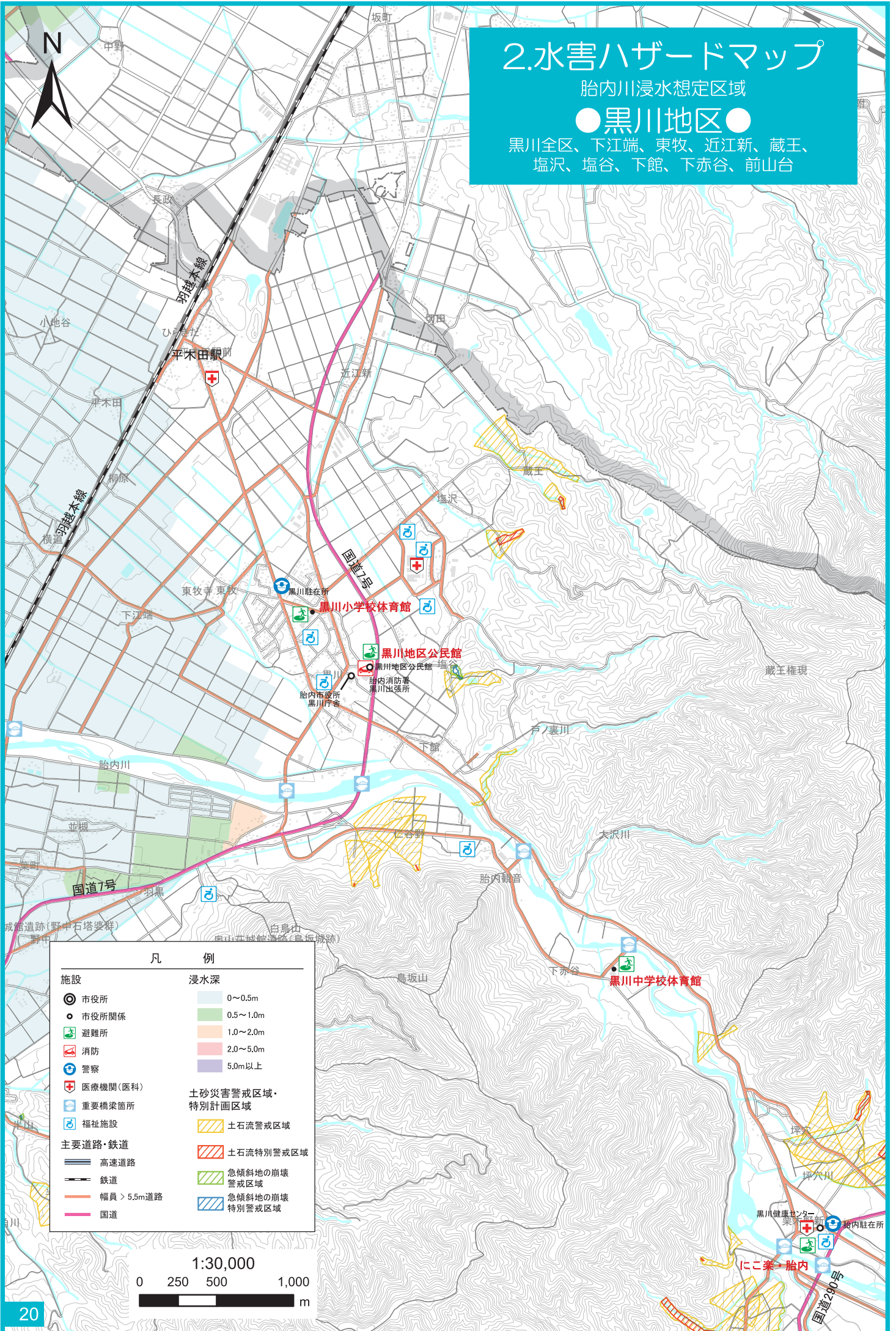
19

2.水害ハザードマップ

胎内川浸水想定区域

●黒川地区●

黒川全区、下江端、東牧、近江新、蔵王、塩沢、塩谷、下館、下赤谷、前山台

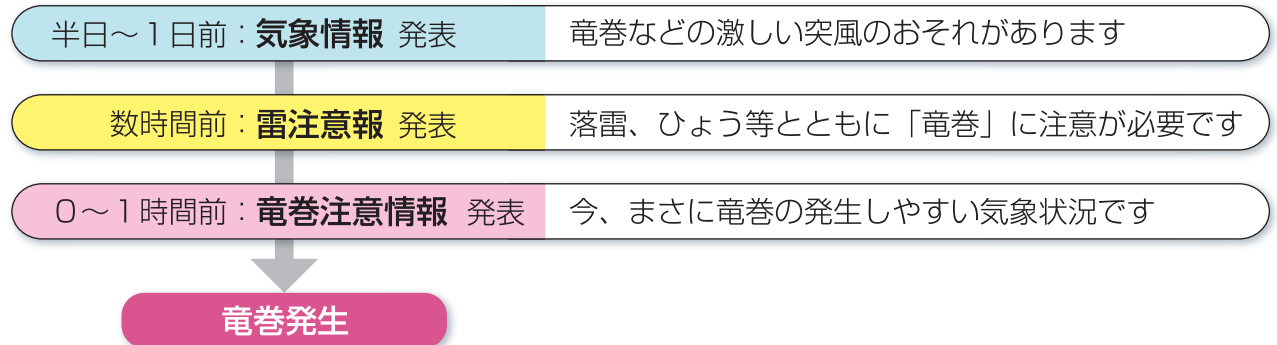


竜巻・雷について

胎内市では2010（平成22）年に村松浜から塩沢にかけての地域で突風による負傷者や建物の損壊などが発生しました。近年、全国的に竜巻被害が増えていることから、気象庁から「竜巻注意情報」が発表されるようになりました。



情報発表のタイミング



竜巻発生時の主な前兆

- 真っ黒い雲が近づき、周囲が暗くなった。
- 雷鳴が聞こえたり、雷が見えたりする。
- ヒヤッとした冷たい風が吹き出す。
- 大粒の雨や「ひょう」が降り出す。

雷鳴が聞こえたり、雷が見えたら

雷は、一般的には夏季に発生しやすいものですが、日本海側では雪が降る前の雷を「雪おこし」と呼び、冬季にも発生するため注意が必要です。

竜巻からの避難のポイント

屋内にいたら

- 雨戸・シャッターを閉める。
- 窓とカーテンを閉めたあとには近づかない。
- 窓の無い家の中心部や地下室に移動する。
- 部屋の壁やドアから離れる。
- 頑丈な机の下に入り、頭と首を守る。



屋外にいたら

- 近くの頑丈な建物に避難する。
- 飛来物に注意する。
- 車庫、物置やプレハブに避難しない。
- 橋や陸橋の下に避難しない。
- まわりに何も無い時は、近くの水路やくぼみに身を伏せ、両腕で頭と首を守る。
- 電柱や太い樹木には近づかない。



雷からの避難のポイント

雷は、雷雲の位置次第で、ところを選ばずに落ちます。グラウンドなどの開けた場所や山頂・尾根などでは、人に落雷しやすくなるので、できるだけ早く安全な空間に避難してください。

- 鉄筋コンクリートの建物に避難する。
- 自動車やバス、列車に避難する。
- 電柱や太い樹木には近づかない。
（最低4mは離れましょう）

